

インド決済Paytm上場 初値は公募価格の9%安

2021/11/18 17:42 (2021/11/18 21:18更新) | 日本経済新聞 電子版



インド最大のIPOとして注目を集めていた(18日、ムンバイ証券取引所での上場式典で話すシャルマCEO)

【ムンバイ=花田亮輔】インドの決済サービスPaytm(ペイティーエム)を手がけるワン97コミュニケーションズは18日、同国の証券取引所に上場した。調達金額は1830億ルピー(約2800億円)で、インド最大の新規株式公開(IPO)として注目を集めた。

ただ業績は赤字が続いており、ムンバイ証券取引所での初値は1955ルピーと、公募価格の2150ルピーを9%下回った。終値は公募価格から27%安の1564ルピーだった。

ペイティーエムは店舗でのQRコード決済や個人間送金ができるスマートフォンアプリで、3億3300万人の利用者を抱える。[ソフトバンクグループ](#)などが出資してきた。日本の決済サービスであるPayPay(ペイペイ)にも技術支援をしている。

スマホ決済の草分けとして認知度が高いペイティーエムだが、広告・販促費の負担や米グーグルなど他の決済サービスとの競争を背景に赤字が続いている。映画などのチケット販売などアプリの多機能化なども進めているが、地元紙によると目標株価を1200ルピーと低めに見積もるアナリストもいる。

創業者のビジェイ・シェカー・シャルマ最高経営責任者(CEO)は同日、ツイッターに「インドの若者の希望と願望を株式市場に持っていきような気分だ」と投稿した。ムンバイ証券取引所で開かれた上場記念式典では、感極まって言葉に詰まる場面もあった。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.